

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.5版

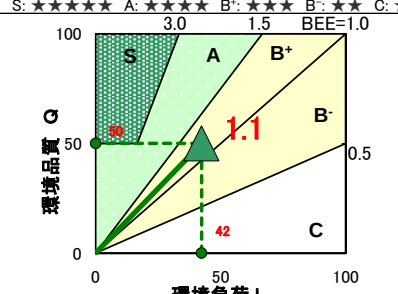
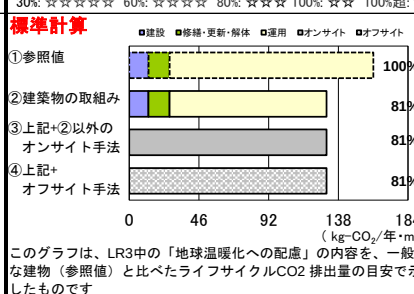
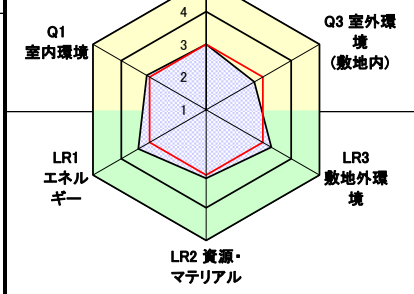
使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

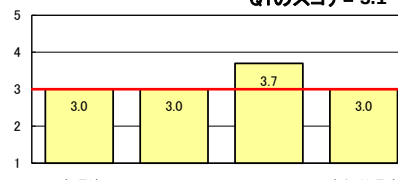
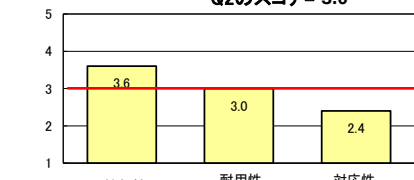
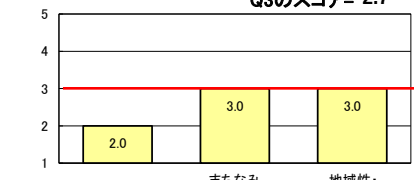
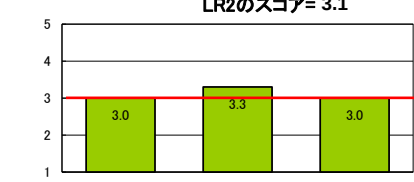
評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市内ホテルプロジェクト	階数	地上12F
建設地	愛知県名古屋市中区丸の内2丁目1615番、1616番1、1616番2	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	298 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年4月28日
敷地面積	444 m ²	作成者	
建築面積	276 m ²	確認日	2025年4月28日
延床面積	2,803 m ²	確認者	

外観バース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.1 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★ 		

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1 	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0 	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.7 
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3 

3 設計上の配慮事項	
総合 丸の内駅から徒歩5分ほどの場所に位置する、大人数・連日宿泊をターゲットとしたホテル。1階には宿泊者専用のエントランスホールを設け、屋外テラスと一体的に利用できる空間となるよう底を計画。客室は南側からの自然光を取り入れる窓を設置し、最大6名まで宿泊可能。各室のキッチンとランドリー室の設置により、長期滞在にも対応。最上階に宿泊者専用のサウナと広々とした外気浴スペースを設け、ビル街を一望できる空間を提供。	その他
Q1 室内環境 客室は南面採光とし、建物出入口には日射を抑制するエントランス底を設けている。外壁・屋根面には断熱化を行い、建物外周のアルミサッシにはLow-E複層ガラスを採用、敷地内は禁煙。	Q3 室外環境 (敷地内) 建物の外装色はグレー系統の落ち着いた色合いとした。エントランスロビーや共用サウナには積極的にガラスを用いた透明性の高い構成とし、屋内外への視認性を確保。
LR1 エネルギー 外部に面する窓ガラスはLow-Eの複層ガラスとし、断熱性能を向上。すべてLEDを使用するなどして、BEIやBPIを押さえた環境配慮心がけている。	LR3 敷地外環境 屋外テラス面には意匠性に優れた軽量ユニットパネル屏を計画し、隣地利用者と宿泊者の視線が交錯しないように配慮。前面の一方通行道路の車両動線の支障とならないように、大型車両乗り入れに適した乗入幅へ拡張し、タクシー利用や物品搬入に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

〔仮称〕名古屋市丸の内ホテルプロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 2.2



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。